

よくある質問集 (ver. 03)

以下に、IVI プラットフォームの申請にあたっての質問をまとめました。

◆プラットフォームに関する情報は、どこまで開示する必要がありますか？

→業務シナリオ WG がそのプラットフォームを利用して、要求するユースケースが可能かどうかを判断するための情報、およびプラットフォーム WG がプラットフォームを評価するために必要な情報の開示をお願いすることになります。通常の利用者に公開する内容の範囲内で、営業秘密情報などは、対象となりません。

◆IVI の業務シナリオ WG にて実証実験をする際に、申請したプラットフォームを利用してもらえる保証がありますか？

→8つのカテゴリの該当する3つについて、IVI として、適切な業務シナリオ WG とのマッチングをはかり利用を依頼します。業務シナリオ WG は、場合によっては、複数のプラットフォームについて実証実験をしていただくこととなりますが、100%保証することはできません。

◆IVI プラットフォームとしてロゴが使えるための審査条件はありますか？

→IVI プラットフォームとして、申請したカテゴリに対応するプラットフォーム WG にて、申請されたプラットフォームの評価をし、その結果を IVI のウェブサイトに掲載します。評価が完了し、その結果が公開された時点で、ロゴを利用できます。認証ではありませんので、内容は相対的な評価となります。

◆実証実験に参加する際に、最終的に実証実験のシナリオを実現させるうえで必要なコンポーネントがないとどうなりますか？

→必要なコンポーネントは、実証実験を行うプロジェクトにて選定するか、プラットフォームが推奨するものを採用することになります。後者の場合は当然ですが、前者の場合でも、当該コンポーネントをつなげるための最低限のサポートをお願いします。(コンポーネントをプラットフォームのラインナップに加えることも検討してください。)

◆プラットフォームとして、特定のコンポーネントを必須とすることは可能ですか？

→プラットフォームが提供する特定のコンポーネントについて、プラットフォームの基本的な機能を兼ねている場合は、それを必須とすることができます。ただし、必要機能を有するコンポーネントなら、きるだけ複数のコンポーネントの候補から選択できるしくみが理想です。

◆コンポーネント企業として実証実験に参加する場合と、プラットフォームとして参加する場合とは、どこが違うのですか？

→コンポーネント企業は、本年度の実証実験における IT 側の主役ではなく、今回の実証実験では、プラ

プラットフォームがいかにしてコンポーネントをつなげたかをもって評価されます。これは解釈上ですが、コンポーネント企業は、機能の提供者という位置づけで、つながるしくみの提供者とはなれません。

◆プラットフォームを適用しない実証実験というのは存在するのですか？

→複数のコンポーネントが存在しないシステムはありえますが、「つながる工場」の実証実験としては、あまりよい事例にはならないでしょう。複数のコンポーネントが存在する場合はかならずつながるしくみ(=プラットフォーム)が必要となります。もし、プラットフォームの候補が思いあたらない場合は、IVI 事務局にて推奨するプラットフォームをまずは利用していただきます。

◆コンポーネント企業があとからプラットフォームになることは可能ですか？

→11 月以降であっても、構成するプラットフォームが合意すれば、すでに動いているプラットフォームを構成するプラットフォームの一員として、コンポーネント企業があらたに参加することも可能です。

◆実証実験を行う際に、必要な経費が発生した場合は請求できますか？

→実証実験を行うにあたって、原則として無償で利用ライセンスの提供をお願いしています。ただし、カスタマイズや個別の追加システムが必要な場合など、工場がその後も利用可能な場合や、実証実験で固有の事情がある場合は、あらかじめ実証実験先との合意のうえに対応してください。

◆実証実験をおこなう際にえられたデータの帰属はどうなりますか？

→実証実験は、IVI のプロジェクトとして行うことになっており、IVI はそのデータの扱いについて関与しません。この場合は、IVI の推奨する契約ひながたがありますので、実証実験を行う工場と、プラットフォームとの間で、別途契約をむすんで進めてください。それ以外は、原則として、得られたデータは工場側に帰属し、実証実験の目的外の利用は禁止です。

◆協賛費の支払い期限はいつですか？

→お申込み月の翌々月の末日までに銀行振り込みとなります。ただし、個々のプラットフォーム企業の事情に応じて期日はご相談させていただきます。(3月の年度内である必要があります。)

◆協賛費はどのような費用として利用されるのですか？

→IVI の会員の通常の活動では、基本的にものづくりの企業がそれぞれ協調領域を確認しあい、あるべきつながるしくみのランドデザインをつくるために活動しています。一方で、IVI プラットフォームは、プラットフォームのビジネスの一部としてそれ自体で利益に貢献するしくみとなります。IVI プラットフォームの協賛費は、そうしたプラットフォームビジネスを円滑におこなうための中立的な機関として、ものづくりユーザー側の視点にたつて、機能の客観的な評価や Web による公開、共通の要求仕様の作成などの活動の原資として利用いたします。

◆コンポーネント企業として、複数のプラットフォームに参加する場合は、協賛金はどうなりますか？

→コンポーネントとしてプラットフォームに参加する場合は費用がかかりませんが、コンポーネント企業がプラットフォームとして参加する場合は、そのプラットフォームの数だけ協賛費が必要となります。

◆第一次（9月末）と第二次（10月末）での違いはありますか？

→第一次申し込みのプラットフォームは、10月のシンポジウムにてプレスリリース等にて紹介するほか、IVIのWG側で事前に該当する機能のすりあわせをいたします。また、プラットフォーム名の決定や業務シナリオWG間のカテゴリ調整など、まずは第一次申し込みのプラットフォーム間で行います。第二次では、希望のカテゴリの募集が終わっている可能性があります。

◆プラットフォームカテゴリはどのようにして決定したらよいですか？

→IVIカテゴリごとに、業務シナリオWGがユースケースをもっていますので、選択したカテゴリに該当する業務シナリオに対応した実証実験を行うケースが考えられます。なお、特定のカテゴリのプラットフォームの申請が多い場合には、第一次申請の時点で、そのカテゴリの募集は終了する可能性がありますのであらかじめご了承ください。

◆11月以降でもプラットフォームの申し込みは可能ですか？

→可能です。ただし、IVI側で、業務シナリオWGとのマッチングは行いませんので、実証実験の機会は確実にあるかどうかは保証されません。

◆次年度以降はどのような手続きが必要となりますか？

→IVIプラットフォームは、期間が1年間ですが、次年度も連続して申請することで、本年度の成果は継続できます。したがって、毎年、実証実験を重ねることで、プラットフォームの実績が確実に増えていき、そのフィードバックによりさらに評価が高いものとすることができます。なお、次年度の申請がないと、Webの掲載は、6カ月の猶予期間の後に削除されることとなります。

（その他、ご質問がありましたら、事務局まで。。）